

稲作情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.4

TEL:018-860-3410

FAX:018-860-3834

生育に合わせた水管理を徹底！

残草の状況を確認して除草対策を徹底

1 気象経過と生育状況

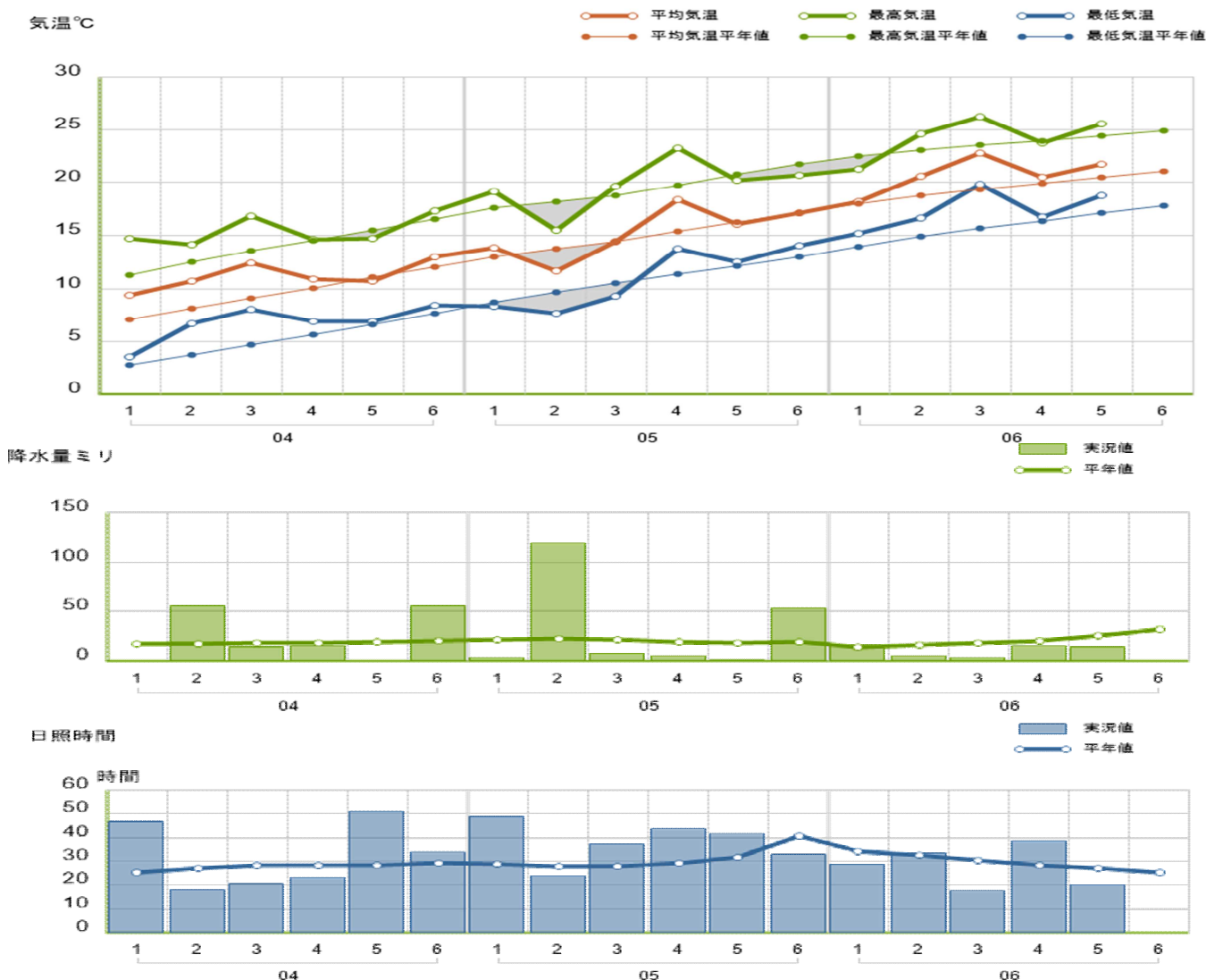


図 半旬毎の気象経過(4月1日~6月25日)(アメダス秋田、気象庁 HP より作成)

〈気象と生育の概況〉

気温は5月は平年並に推移しましたが、6月上・中旬は高くなりました。東北北部は6月11日に平年よりやや早く梅雨入りしました。今後は、気温が高い予報となっています。

6月26日の定点調査(あきたこまち:9地点平均)では、草丈は46.1cm(平年比117%)と長く、茎数は460本/m²(同比113%)と多く、葉数は9.4葉(同差+0.4)とやや多く、葉色は43.7(同比99%)と平年並となりました。

表 水稻定点調査結果(6月26日実施)

| | 本年 | 比較 | |
|-----------|---------------------|-------|-------|
| | | 平年比・差 | 前年比・差 |
| 草丈 | 46.1cm | 117% | 125% |
| 茎数 | 460本/m ² | 113% | 130% |
| 葉数 | 9.4葉 | +0.4葉 | +0.3葉 |
| 葉色 (SPAD) | 43.7 | 99% | 90% |

※ 管内定点ほ場9地点(あきたこまち)の平均値

2 水管理、中干し・溝切り

- ① あきたこまち(目標収量 570kg/10a、中苗)の目標穂数は 440 本/m²(70 株/坪植えの場合、1 株当たりで約 20 本)です。6 月 25 日頃(8.5 葉期頃)が目標茎数(目標穂数と同じ茎数)を確保する目安時期ですが、目標茎数を確保できていないほ場も見られます。
- ② 目標茎数を確保していないほ場では、浅水管理で水温と地温を高め、分けつの発生を促進してください。茎数が十分に確保できない場合は中干しの開始を遅らせるとともに、強い中干しは行わないようにしてください。
- ③ 目標茎数を確保したほ場では、中干しにより分けつの発生を抑制します。中干しの期間は、7～10 日程度を目安とし、田面に亀裂が1～2cm 入り、足跡が付く程度とします。
- ④ 溝切りは、その後の水管理や秋作業の効率化につながるため、積極的に実施しましょう。
- ⑤ 幼穂形成期(7 月 15 日頃)に土壌水分が不足すると1穂粒数の減少を招くため、中干しは幼穂形成期前には必ず終了してください。
- ⑥ 中干し後は間断かん水を基本としますが、減数分裂期頃は低温に弱い生育ステージとなるため、気象情報に留意し低温時は深水にして保温してください。

3 病虫害防除は適切に実施

① いもち病

1 か月予報(仙台管区气象台6月 22 日発表)によると、向こう1か月は気温が高く、平年と同様に雨や曇りの日が多い見込みです。葉いもちの感染に好適な気象条件になると予想されるため、定期的にはほ場の検診を行い、いもち病の早期発見・早期防除に務めましょう。

また、罹病苗の持ち込みにより本田で葉いもちが確認された場合は、これまで使用した葉いもち防除剤の効果が十分に発揮されないため、直ちにブラシン剤またはノンブラス剤を散布してください。



写真 葉いもちの病斑

② 斑点米カメムシ(アカスジカスミカメ)

斑点米被害の原因となるアカスジカスミカメは、ホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵するため、これらの雑草が水田内で繁茂すると多発し、斑点米による被害が大きくなります。このため、雑草防除が斑点米の被害防止に重要となります。残草が多いほ場では、中・後期除草剤の散布を検討してください。除草剤の散布は、残草している種類や雑草の生育状況をよく観察し、使用する除草剤の散布適期を逃さないようにします。

また、繁殖地となる農道・畦畔、休耕田等の草刈りは、稲が出穂する 15～10 日前までに数回実施します。なお、草刈りは可能な限り地域で一斉に行ってください。

4 熱中症に気を付けましょう

本格的に梅雨に突入し、高温多湿の日が続きます。同じ気温でも湿度の高い日の方が熱中症になりやすいとされていますので、こまめな水分・塩分補給を心掛け、熱中症を予防しましょう。

◇次号は 7 月 6 日頃の予定です。